

醋酸纖維素皮膜製造及び紡糸試験 (第三報)

醋酸纖維素紡糸に就て

喜 多 源 逸 植 松 達 巳 増 田 周 三

(工業化學雜誌 昭和三年第31編739頁)

市販醋酸纖維素を用ひ乾式にて紡糸し紡糸の條件と糸の性質の關係を求めたり
一定濃度の紡糸液に對しては一定の壓必要なり壓弱きに過ぐるも強きに過ぐるも紡
糸し得ず 同一條件の下にて紡糸の際一定の速度にて紡糸したるもの最高強力を與ふ
此速度は糸が餘り強く引張られざる如きものなる可く又反對に餘り弱くして糸が弛む
如きものならざる事を要す

糸の強度は紡糸液の濃度 壓によるものなれば強力なる糸を得んには濃度 壓及び
速度の關係を一定に擇ぶこと必要なり

温度の影響は勿論粘度に關係し流出量及び糸の品質に現はる 其他の影響に就ては
精確に觀察せられざりき 然れども 20—40 度の範圍にては一定の條件により能く良
好なる糸を作り得

溶劑の比較試験に於てアセトンにベンゾール 5, 10, 15, 及び 20% を加へたるもの
中にて最良割合を見出したり本例に於てベンゾール 10% を加へたるもの最適當な
りき アセトンに酒精を加へたる場合にも最良割合あり 酒精 20% を加へたるもの
最良なりき アセトンに對し 20% の酒精及びベンゾールの混合物を加へたるに同量
の混合物よりは異量の混合物の方適當なりき

アセトン中に水 10% 以下存在する時は糸の強力に著しく影響せず然れども光澤に
は水 10% は著しき影響ありたり